

GREEN RADAR

Vol.487
2019

12

Contents

A-Policy【重点事業方針】

- ・令和元年度 生産振興部の事業進捗状況報告
- ・生活購買事業 組織品目商品研修会
- ・令和元年度 野菜・花きの中期事業計画の進捗状況

A-Reports

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| ・「ナガノパープル」と「えのきたけ」が機能性表示食品に！…………… 5 | ・アスリート鍋「ブロッコリーのカレーミルク鍋」レシピ…………… 10 |
| ・小学校で食育授業…………… 6 | ・JA全農長野の事業現況…………… 10 |
| ・「くらしと牛乳、牛さんありがとう」絵のコンクール表彰式…………… 6 | ・12月の動き…………… 10 |
| ・CSF（豚コレラ）のワクチン接種が始まりました…………… 7 | ・12月のラジオ番組表…………… 10 |
| ・学生食堂の「食育ランチ」に協賛 県産農産物をPR…………… 9 | ・編集後記…………… 10 |
| ・協同経営SS ウィンターキャンペーンを実施中！…………… 9 | |



生産振興部

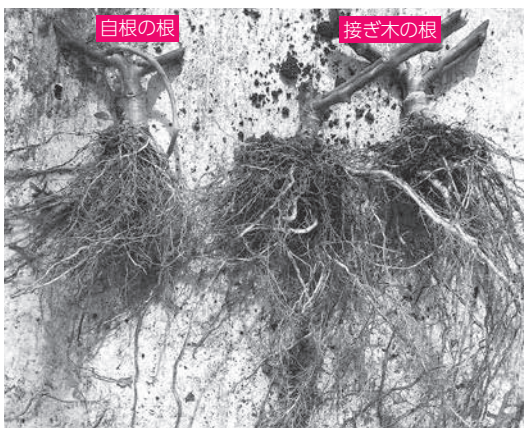
令和元年度生産振興部の
事業進捗状況報告

J A全農長野生産振興部では、マーケットニーズに基づいた生産振興を軸に、生産の安定と拡大に向け施設化や機械化を進めています。また、その基となる技術・品種等についても実証を行っています。その取組みの途中経過について報告します。

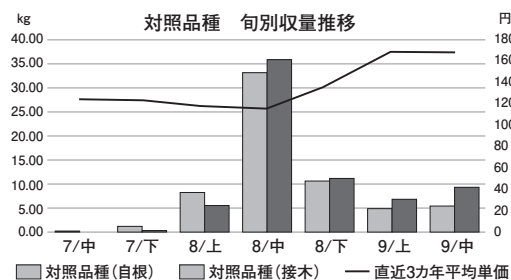
1. ミニトマトにおける秋口の
収量確保対策（接木苗の検証）

ミニトマトは昨今の簡便性志向の高まりや中食業態の伸長により、使いやすしい品目として消費量は増加傾向にあります。これらの状況や安定した単価推移により、生産量も全国的に増加しています。しかし、近年の夏場の高温により低標高地では「夏越し」が難しく、秋口（9～10月）の出荷が不安定となり相場は高い傾向にあります。そこで、長野県の冷涼な気候を活かしながら、産地に合う品種の選定および接木苗を利用することで樹勢を維持し、秋口の数量確保と所得向上を図ること

を目的に佐久地区の生産者の圃場で試験を実施しました。



ます。

2. 加工適性が高い
キャベツの品種選定

これまでの品種選定は、青果向けが主体で業務用に特化した選定は行っていませんでした。しかし、現在の流通では業務用に仕向けられるキャベツの割合が概ね6割を超えているため、今年度は業務用に向けた品種を選定しました。選定にあたり、産地での作りや

すはもちろん、カットサラダの大手製造メーカーと連携し、加工適性までを評価する試験も初めて試みました。「顧客が求めるものを作る」というマーケットインの目線に立ち、産地と実需者が互いにメリットのある品種の導入を目指しました。また、近年「中枯れ症状」の発生が多いため、生理障害にも強い品種を選定しました。南佐久地区で春作と秋作の二作型で試験し、出荷時の品質および在圃性の確認、実需者の評価（歩留まり、加工適性等）も参考に、栽培状況と合わせて検討しました。

試験結果から、生食とカット仕向けでは、求める品質が異なることが明確になりました。特に、千切りに仕向けられるキャベツは、硬くて一辺が長く取れ、袋の開封時に青臭さが残らない品種が求められていました。産地の栽培環境も考慮しながら、実需者の要望に沿った品種を選定し、次年度の作付けに活かしていきます。

これからも当部では、農業所得増大につながる実践事例等を積み上げ、長野県農業の生産基盤づくりを進めていきます。

生活課

生活購買事業 組織品目商品研修会
組織品目の推進と商品理解を深める

生活事業推進協議会は10月29日(火)、松本市公設市場で「J A下期組織品目商品研修会」を開催しました。これは、耐久消費財や衣料品を中心とした「組織品目」の下期の推進と商品理解を深めることを目的とし、J Aの生活担当課長や担当者など約20名が出席しました。

はじめに、これから需要期となる年末年始商品の重詰めおせちや皿盛・オードブルなどを紹介しました。商品の規格や見栄えだけでなく、実際に試



年末年始商品の試食の様子

食をして商品の確認をしていただきました。

耐久消費財では、初めて蓄電池の研修を行いました。蓄電池は、2009年11月から始まった「F^{*}」が順次終了することから、住宅用太陽光発電設備を設置した家庭は「電気を売る」から「発電して余った電気を貯めて自宅で使用する」へシフトすることが予想されるため、今後の需要が見込まれる商品です。

※再生可能エネルギーの固定価格買取制度のこと。
住宅用太陽光発電等の設置から10年間は高値での売電が保障される制度。

高齢者向け商品では、J A全農の推奨する充電式補聴器を紹介し、J Aの施設における「聞こえの相談会」の開催案内をしました。また、現在県下5 J Aの共済・金融窓口に設置いただいている、難聴者向けスピーカー「コミュニケーション」では、カウンター越しでの会話において顧客満足度の向上が期待されるといった事例を紹介しました。

衣料品では、(株)長野エーコープサプライが保温性肌着『ラビセーヌ、ひだまり』を紹介しました。素材サンプルによる保温力を体感していただき、肌に直接触れることにより手触りの良さや抜群の保温効果を実感いただきました。長野県のこれからの厳寒期の保温対策としておすすめの商品です。

また、全農クミックス(株)では、果樹生産者向けの『腕上げサポーター』や、農産物などを運ぶ際の『中腰姿勢作業のサポーター』や『腰の負担を軽減するサポーター』など、農作業の負担を軽減するサポート用品を紹介しました。特に、腰の負担を軽減する『バリントイスト』は本年7月に開催されたJ A農機&資材フェスタにおいても生産者の方から高い支持をいただいた商品です。参加者の中にも実際に使用してみて「腰への負担が軽減される」といった感想もいただきました。

最後に共同購入品目のアパデント(歯磨き粉)の新品目として、知覚過



作業負担軽減サポート用品の説明

生活事業では農作業や暮らしに役立つ商品を多く取り扱っております。一人でも多くの組合員に商品の良さを知っていただき納得していただけるよう、今後も取り組んでまいります。

野菜花き課

令和元年度野菜・花きの
中期事業計画の進捗状況

令和元年度の事業計画は、野菜事業586億4500万円、花き事業65億円、購買種苗事業8億3000万円であり、合計659億7500万円の事業計画の達成に向けて事業を推進してきました。

1. 野菜事業の進捗状況について
〔生産販売状況〕

春先の低温により遅い出荷スタートとなりました。その後も気温の急激な上昇や低温長雨・低日照、干ばつなど気象変動に左右され期間を通して出荷不安定となりました。

そのような中で出荷最盛期に向けて、出荷計画に基づいた事前売込み、企画投入を行いました。しかしながら消費地では毎週末の降雨により末端消費が鈍り、更には歩留まりが良く業務加工の土場買いの動きも出ず、販売環境が悪化したため調整廃棄事業の発動も行いながら価格浮上を図りました。

8月以降も極端な気象変化により作柄、出荷が見通しにくく販売対策に苦

慮しましたが、店頭販促など消費宣伝活動は継続的に進めてまいりました。

10月は例年以上の気温高により出荷量は急増するも、消費面ではハクサイを中心とする鍋商材の販売が苦戦したため、シーズン終盤間際の調整廃棄事業の発動を余儀なくされました。また災害をもたらした19号をはじめとする台風は週末消費に最後まで影響を与えました。

野菜は数年前から価格回復基調とみられた状況から、人口減・共働世帯の増加、業務加工主体に実需者の仕入構造の変化等により高値が出ていく、異常気象により生産出荷が不安定となり価格形成が以前より難しくなってきたいます。

このような経過により10月末現在での実績は499億円となり、3月末見通しでは526億円となっています。

〔野菜の重点推進事項について〕

(1)生産者の手取りの拡大に向けた販売力の強化

2. 花き事業の進捗状況について
〔生産販売状況〕

春先の低温と梅雨明けまで続いた曇天低日照は花き全般に生育遅延、品目により数量減少となりました。盆・彼岸需要期はやや遅れ気味ながらも前年を上回る数量確保ができました。しかし花き全般に遅れていたものが、9月下旬以降回復し全国的な集中出荷となりトルコギキョウを主体に相場低迷しました。

量販向けコギクは作型拡大、ステーション別栽培講習会により前年実績・計画共にクリアしました。アルストロメリアは夏切作型の拡大と秋冬に向け十分な株養成により昨年以上の実績確保が見込まれます。しかし、トルコギキョウは連作障害等による切花効率の低下、輪ギク・カーネーションは生産減少に歯止めが掛らず課題が残りました。

10月末実績は、47億円（前年比92%、数量前年比97%）となり、3月末見通しは57億円となっています。

〔花きの重点推進事項について〕

(1)生産者の手取りの拡大に向けた販売力の強化

重点実需者と複数産地・複数品目による取引拡大、安定した品質・数量の確保のため栽培講習会や情報交換会を

実需者、営業課と連携した取組みとして、ハクサイのキムチ増量キャンペーン（継続）、新たに営業課と実需者連携によるカットレタスの増量企画を行いました。特にレタスは近年低調な価格推移が課題となっており、更なる需要掘り起こしに取り組みます。

いくような意識を共有しました。次年度に向けては各品目ごとに、実需者および産地課題を整理し推進を行います。

(3)集出荷機能の強化と広域的利用体制の確立

アスパラガスのバラ集荷対策としてJA関係と協議を進めてきましたが、JAでの共選施設設置は現状稼働率等の課題があり、次年度は県本部を主体としたバラ集荷結束を行う方向で検討しています。

(4)物流対策・輸送効率化

包装資材課と連携しパレット輸送への対応とDB規格集約によるコスト低減を目的とした統一セグメントを試作し検討を開始しました。産地事情・品目により課題が多くありますが、できる品目から統一セグメントへの集約を進めます。また、販売流通企画課と協力し貨物船輸送試験を行いました。今後とも厳しさが増す輸送事情に対し効率化にむけた取組みを進めていきます。

(2)マーケティング情報に基づく生産販売提案による取組強化

実需者要望、産地状況を考慮した取組みとして、規格の簡素化による業務用キウリの拡大、壬生菜の新規産地での導入試験、業務用キャベツの品種検討と機械定植・収穫の取組み拡大を行いました。ジュース用トマトは需要がありながら栽培減少が止まらない状況であり、反収向上等、産地・実需者が一丸となってできることを模索して

行いました（コギク・トルコギキョウ・カーネーション・アルストロメリア・シャクヤク・グラジオラス他）。

(2)マーケティング情報に基づく生産販売提案による取組強化

本県主要品目の需要動向調査を実施しました。これを基に各産地の重点品目および取組事項を整理し生産維持・拡大を図ります。また、量販向けコギクのほか、実需者要望の高い業務用トルコギキョウなど用途別生産の実証試験、経済性検証を進めます。

(3)集出荷機能の強化と広域的利用体制の確立

中信3JAの広域集荷・共同販売の協議は課題が多いため、現状分析に基づく具体的提案を行い更にJA間及び部会間の協議を進めてまいります。

(4)物流対策・輸送効率化

中継利用・気付輸送の内容整理を行い産地実態に合せ効率的且つ経済的な対策を進めます。パレット輸送への対応と段ボールのコストダウンを目的に新規格を試作し箱詰め試験を進め課題の整理と更なる改善を図ります。



ジュース用トマト新規導入モデル圃巡回



業務用キャベツの機械定植



量販向けコギク品種検討会

「ナガノパープル」と「えのきたけ」が機能性表示食品に！

J A全農長野が届出者となり、信州大学・長野県との産学官連携の研究成果として、ナガノパープルとえのきたけの機能性表示食品の届け出が消費者庁に受理されました。生鮮食品のぶどうときのこが受理されたのは全国で初めてです。

機能性関与成分はGABA（γ-アミノ酪酸）で、GABAには血圧が高めの方の血圧を下げる機能があることが報告されています。ナガノパープルは1日110g（11粒）、えのきたけは1日30g（可食部）を摂取することで効果が期待できます。

機能性表示食品は消費者庁が定めたルールに基づく商品の適正な管理が求められており、ナガノパープルは「毎日グレープ（ナガノパープル）」、えのきたけは「長野県J A産えのきたけ」の商品名で、届け出たパッ



（左から）記者会見に臨む 信州大学藤田智之農学部長、阿部知事、小林県本部長

ケーデザインのみで販売が認められています。

11月12日（火）の共同記者会見では、阿部守一知事が3者の連携により、長野県を代表する農産物が機能性表示食品として受理されたことを報告し、小林

哲男県本部長が「健康に関心の高い消費者層をターゲットに付加価値を持たせた販売をしていきたい」と話しました。

ナガノパープルは次年度の出荷シーズンに向け販売方を検討します。周



受理されたことをPRするため、長野駅前でえのきたけとえのきたけスープを配布



JR長野駅コンコースの横断幕

年出荷をしているえのきたけは、まずは県内や東京の限定された店舗で試験的に販売し、商品特性への理解と協力を得られる取引先へ順次販路を拡大していく予定です。

小学校で食育授業

長野県やJ A全農長野などで作る「おいしい信州ふーどキャンペーン」推進委員会は「長野県きのこの日」の11月11日（月）、麻績村立麻績小学校で「旬ちゃんと地産地消について学ぼう！ in 麻績小学校」を開きました。

給食前の4時間目の授業を使わせていただき、体育館で全校児童99名を対象に、地産地消の話とこの学習、えのきたけのもぎ取り体験をしてもらい、給食では県産きのこを使った「信州ポークのゴロゴロカレー」や「森のサラダ」、リンゴ「シナノゴールド」など、地産地消尽くしの時間となりました。

きのこの学習は、麻績村でえのきたけを生産しているJ A松本ハイランドきのこ部会員の三浦充さんにお越しいただき、クイズを出しながらきのこの栄養や保存方法を説明。三浦さんが持ち込んだえのきたけを一人1株もぎ取り、お土産にしました。



信州ポーク、きのこ、リンゴを提供



えのきたけの話を三浦さん（左）ときこの課職員

「くらしと牛乳、牛さんありがとう」絵のコンクール表彰式

長野県牛乳普及協会（事務局／J A全農長野酪農課）は11月9日（土）、J A長野県ビルで、「第34回くらしと牛乳、牛さんありがとう絵のコンクール」の表彰式を開催し、金賞10名を表彰しました。

応募総数718点の中から厳正なる審査の結果、金賞10名、銀賞10名、銅賞10名、佳作2名が、金賞の部の長野県知事賞には佐藤結哉君（須坂小学校）、寺島新君（阿智第二小学校）、大野陽太郎君（日向幼稚園）の3名が選ばれました。入賞作品は、「牛乳をおいしそうに飲む姿や、力強い牛が描かれており、素晴らしい」と評価されました。

このコンクールは園児・児童の牛乳利用普及拡大と酪農への理解醸成を目的に開催しています。コンクールを通じて、今後関係団体と共に「安全・安心な信州産牛乳」の消費拡大に努めてまいります。

金賞受賞者（敬称略）

賞	氏名	学校・園名	学年・年齢
長野県知事賞	佐藤 結哉	須坂小学校（須坂市）	5学年
	寺島 新	阿智第二小学校（阿智村）	1学年
	大野陽太郎	日向幼稚園（上田市）	年長・6歳
長野県教育委員会賞	橋渡 蒼太	南部小学校（南箕輪村）	1学年
	竹内咲結実	山王保育園（長野市）	年中・5歳
	菅井伸治朗	高山小学校（高山村）	2学年
（一社）Jミルク会長賞	小須田琉空	杉の子幼稚園（御代田町）	年長・6歳
	久保田恵哉	大豆島小学校（長野市）	6学年
長野県牛乳普及協会賞	齋藤 風花	日向幼稚園（上田市）	年長・5歳
	荻原 陸斗	滋野小学校（東御市）	1学年



前列左から／齋藤風花さん、小須田琉空君、竹内咲結実さん、大野陽太郎君、佐藤結哉君、寺島新君、橋渡蒼太君、菅井伸治朗君、荻原陸斗君（久保田恵哉君：欠席）

CSF(豚コレラ)のワクチン接種が始まりました 中部から関東まで11県で

昨年9月に岐阜県で発生以来、関東まで広がったCSF(豚コレラ)への対策として、長野県でも10月26日(土)から86農場72,000頭に対して初回のワクチン全頭接種が開始されました。生産者にとっては強く要望してきたことであり、やっと願いが叶ったこととなります。

しかし、「豚コレラ」「ワクチン接種」等の報道により、豚肉消費が減退する風評被害も心配されます。店頭に並んでいる豚肉が安全であることを皆様に知っていただくために、農水省のHPに記載されているQ&Aを掲載します。正しい理解によりこれからも信州ポークを愛顧くださいますよう、よろしくをお願いします。

尚、農水省は11月12日(火)、豚コレラという呼称が消費者の不安を招く恐れがあるため、豚コレラの呼称を「CSF(Classical swine fever)」、アフリカ豚コレラの呼称を「ASF(African swine fever)」に変更すると発表し

ました。そのため、今後、豚コレラについては、変更後の呼称を使用します。

CSF(豚コレラ)に関するQ&A (農水省HPより)

CSFは、豚やイノシシの病気であって、人に感染することはない、また、感染した豚の肉が市場に出回ることもありません。

仮にCSFに感染した豚に肉や内臓を食べても、人体に影響はありません。

Q 今回使用するCSFワクチンを接種した豚の肉を食べた場合、人の健康に影響がありますか。

A 今回使用するCSFワクチンを接種した豚に肉を食べても、人に健康に影響はありません。
詳しくは以下をご覧ください。

Q1 CSFとは、どのような病気ですか。

A1 CSF(Classical swine fever)は、CSFウイルスの感染による豚とイノシシの病気です。強い伝染力と高い致死率が特徴で、家畜伝染病予防法において家畜伝染病に指定されています。このため、発生した農場では、飼養豚等を対象に防疫措置を行うこととしています。

Q2 CSFとASF(アフリカ豚コレラ)は、同じ病気ですか。

A2 病状は似ていますが、原因となるウイルスが異なる違う病気です。CSFの原因ウイルスは、フラビウイルス科ペスチウイルス属に分類されますが、ASF(African swine fever)の原因ウイルスは、アスファウイルス科アスファイウイルス属に分類されています。なお、ASFも、人には感染しません。

Q3 これまでに、CSFの発生はありますか。

りましたか。

A3 明治20年(1887年)、我が国で初めてCSFの発生が確認されました。昭和44年(1969年)に生ワクチンが開発され、発生が激減し、平成4年(1992年)を最後に発生は確認されていませんでした。

Q4 CSFウイルスは、人に感染しますか。

A4 CSFは、豚とイノシシの病気です。人には感染しません。

Q5 CSFにかかった豚の肉は、市場に流通しますか。

A5 豚は、と畜場法に基づき、全頭、都道府県等のと畜検査員(獣医師)が異常や疾病がないか検査し、合格したものだけが市場に流通することになっています。と畜場でCSFであると確認された豚や内臓等については、検査不合格となり、市場に流通することはありません。

Q6 平成30年(2018年)9月の発生以降、どのような対策を行ってきましたか。

A6 CSFの対策については、平成30年9月以降の発生以降、衛生管理の徹底、早期出荷促進対策、防護柵の設置支援、捕獲強化や経口ワクチンの散布などの野生イノシシ対策等を実施してきました。

Q7 今回、CSFワクチンを接種するのはどうですか。

A7 CSFの防疫措置は、早期発見と感染した豚の処分を原則としています。CSFワクチンは、適切に接種されれば発症を防御することができますが、無計画かつ無秩序なワクチン使用は、感染した豚の存在を分かりにくくします。このため、予防的なワクチン接種を原則行いません。

今般、野生イノシシにおいて、CSFの感染が拡大しており、衛生管理の向上等を図っても豚への感染防止が難しい場合に、豚への感染リスクが高い地域において、豚を対象にワクチンを接種し、CSFの発生を予防することになりました。

Q8 今回使用するCSFワクチンとはどのようなものですか。

A8 今回使用するCSFワクチン(以下、「CSFワクチン」)は、医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(昭和35年法律第145号。旧「薬事法」)に基づき農林水産大臣が承認し、国が備蓄しているものです。有効性及び安全性は担保されています。

Q9 CSFワクチンは、日本で使用したことがありますか。

A9 昭和44年(1969年)から平成18年(2006年)まで、37年間にわたって、国内でほとんどの豚に使用していました。

Q10 この間、CSFワクチンを接種した豚の肉を食べて、人の健康に影響を及ぼした事例はありますか。

A10 上記の法律に基づき、承認された医薬品は販売後に実際に使用した際の安全性等の情報を収集していますが、CSFワクチンを接種した豚の肉を食べて、人の健康に影響があったという報告はありません。

Q11 CSFワクチンには、どのような成分が含まれていますか。

A11 豚にCSFを引き起こさせないよう病原性を弱くしたCSFウイルスと添加剤が含まれています。

Q12 CSFワクチンに含まれる添加剤が人の健康に影響を及ぼすことはありませんか。

A12 CSFワクチンに含まれている添加剤は、①食品又は食品から通常摂取されている成分(塩化ナトリウム、精製水、乳糖)及び②食品衛生法に基づく食品添加物として使用されている成分(ポリビニルピロリドン、リン酸水素ナトリウム、リン酸二水素ナトリウム)ですので、ワクチンに含まれ

ている添加物の量であれば、人の健康に影響はありません。

Q13 CSFワクチンの成分は豚肉に残留しているのですか。

A13 CSFワクチンを接種した健康な豚は、体内でCSFに対する免疫を獲得します。人の予防接種のように免疫を獲得すると、ワクチンに含まれているCSFウイルスは体内から消失します。このため、ワクチンに含まれているCSFウイルスが豚肉に残留することはないと考えられます。なお、ワクチンの成分(Q11及びQ12参照)が万一残留したとしても、人の健康に影響はありません。



学生食堂の「食育ランチ」に協賛 県産農産物をPR

JA全農長野生産販売部は、10月29日(火)・30日(水)の両日、県内大学の学生食堂7会場で開催された「食育ランチ」に食材提供で協力し、県産農産物のPRを実施しました。

「食育ランチ」は、長野県生活協同組合連合会と信州大学・松本大学の各大学生協が主催し、2007年から実施されている取組みです。両大学の学生食堂において県産農産物や、県内協賛企業から提供された食品を使ったメニューが提供されるほか、栄養士による食生活相談なども実施されています。

今回、生産販売部からはハクサイ、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、シナノゴールドを提供し、提供メニュー(左記)は、2日間でのべ870食ほどの利用がありました。食べた学生の感想は、「生の白菜がこんなに美味しいとは」「きのこの美味しさがあふれていた」「リンゴを久しぶりに食べた」「生の果物は嬉しい」「野菜が摂れて、食生活を見直すきっかけになった」「一人暮らしなので、久しぶりにこんなに栄養バランスがよく食べられて嬉しかった」などの反響がありました。

学生たちにとって「食育ランチ」の機会は、旬の県産農産物の美味しさや食べ方を知るきっかけとなっているようです。

- 〈食育ランチ提供メニュー〉
- ・信州豚のきのこソースがけ
 - ・信州産白菜とハムのサラダ
 - ・えのきたけの味噌汁
 - ・シナノゴールド
 - ・えのきヨーグルト



栄養バランスのとれた食育ランチ



食育ランチを味わう学生 (信州大学工学部)

協同経営SSウィンター キャンペーンを実施中!

JA全農長野協同経営SSは令和元年11月1日(金)〜12月31日(火)の2カ月間、ウィンターキャンペーンを実施しています。今回のキャンペーンでは、畜産酪農部畜産課とのコラボレーション企画を行っています。

キャンペーンでは、日頃SSを利用される組合員様への感謝の気持ちを込めて、「信州アルプス牛ギフト500g」を抽選で460名様(46SS×10名様)にプレゼントします!!応募方法は期間中のSS利用レシート5,000円分を1口として、店頭で応募用紙に記入しスタンプにお渡しいただくだけです。期間中は何回でも応募が可能です。抽選結果は令和2年1月に商品の発送をもってお知らせします。詳しくは、店頭スタッフまでお問い合わせください。

JA-SSでは組合員様に楽しんで足を運んで頂けるSS作りを展開し、今後イベントやキャンペーンを行っていきます。

皆様のご利用をお待ちしております!

実施SS▶グリーンロード西箕輪/グリーンロード伊那/グリーンロード美郷/グリーンロード春富/グリーンロード西春近/サザンポートみのわ/東部中央/フラワーロード駒ヶ岳/七久保/飯島/グリーンパーク座光寺/まつかわ/市田/カリスタかざ/グリーンパーク桐林/カーポートあち/アイロードあなん/おんたけ/ハイランドセルフ島内/フルーツロードいまい/麻績/松本臨空/アルプスロードはた/グリーンロードやまがた/北小野/メルヘンロード尖石/米沢/玉川/ふじみ/パノラマロードときわ/アルペンロード神城/白馬アルプス/川中島セルフ今井/南長野公園前/アグリしののい/長野インター松代/ちくま西部/中之条/バリオ/アンズロード/相之島/井上/高山/志賀高原/あぐりタウン/木島平



JA全農長野の事業現況▶

令和元年度 10 月末部門別実績表 (単位: 百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
野菜種苗センター		126	89	90
生産振興部計		126	89	90
米	穀	11,676	100	102
果	実	24,295	96	93
野菜	花き	55,056	90	88
きのこ		9,400	94	99
営	業	9,178	85	94
生産販売部計		109,605	92	91
包装資材		5,473	96	103
生産資材		6,300	100	89
農業機械		4,829	104	102
施設住宅		4,203	133	190
生産購買部計		20,805	105	108
畜産		7,726	104	97
三岳牧場		199	111	118
SPF繁殖センター		174	99	97
酪農		10,718	98	98
八ヶ岳牧場		150	95	103
畜産酪農部計		18,967	100	98
燃料・ホームエネルギー		13,773	100	94
SS協同経営		6,389	99	93
生活		6,854	99	99
生活部計		27,017	100	95
長野県本部計		176,521	95	94

(内部販売高含む)

12月の動き▶

12月7日(土)	松本山雅FCホームゲーム 農畜産物PRイベント サンプロアルウィン(松本市)	総務広報課 きのこ課 酪農課
実施中~ 12月31日(火)	長野県産新米 キャッシュバックキャンペーン	米穀課
実施中~ 12月31日(火)	ウィンターキャンペーン	SS協同経営課

12月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
12月25日(水) 10:13	SBCラジオ	坂ちゃんのずくだせえがりでい内「暮らしの応援団」	生産振興部出演
毎週火曜日 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	信州の牛乳・乳製品に関する様々な情報をお届け。リスナープレゼントもあります。

編集後記

先ごろ農林水産祭実りのフェスティバルが東京池袋サンシャインシティにて2日間に渡り開催され、県職員の皆さんと長野県産りんごシナノスイート・シナノゴールド・秋映のりんご三兄弟のPR販売を行ってきました。各県ブースには特産品が並び大勢のお客様で盛大な催しものとなりました。来客者の皆さんからはシャキシャキ感と甘くておいしい信州産のりんごが好評でした。また台風災害に対する気遣い・励ましのお言葉をいただき、元気をもらいました。

さて、健康増進のため友人の勧めでトレッキングを始めることとなり、山登りデビューを果たしました。信州百名山の四阿山(アズマヤサン)2,354m、から根子岳(ネコダケ)を経由し一周してききました。山頂では眼下に広がる雲海と三千米級の山々の絶景にリフレッシュすることができました。一方体力の衰えも痛感し、次の山登りに向けて貯筋活動を始めようと気持ちはありますが……。

(Y)



豚コレラは人に感染しません。

豚コレラは、豚・いのししの病気です。

豚コレラの人への感染は、国際機関（OIE：国際獣疫事務局）の情報においても世界的に報告されておりません。

豚コレラにかかった豚のお肉が市場に出回ることはありません。

豚は、と畜場法に基づき、全頭、都道府県等のと畜検査員が異常や疾病がないか検査しています。豚肉は、この検査に合格したものだけが市場に流通することとなっています。



食卓に安心をお届け

公益財団法人 日本食肉消費総合センター <http://www.jmi.or.jp>

平成30年度国産畜産物安心確保等支援事業



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JAタウン」…………… <https://www.ja-town.com>

